

空き家によるエリアリノベーション

11班 コミュニティデザイン学科 関谷遥希 田中春良
 建築都市デザイン学科 駒場みなみ 細川花菜
 社会基盤デザイン学科 幸野谷旭

空き家を活用した地域密着型サイクルツーリズムの提案

エリア：栃木県栃木市 パートナー：栃木市都市整備部住宅課

背景

栃木市では空き家の増加が深刻な問題になっている

市ではそれに対し様々な対策を行っているが、空き家は今後さらに増加することが予想される。そのため、空き家の活用や発生抑制はさらに重要な課題となる。



目的

空き家 × 自転車 → サイクルツーリズム



蔵の街である栃木市は、観光資源が豊富な街である。そこで、大通りから人々の活動を面的に地域全体に広げることで街全体の活性化を促したいと考えた。

方法

今回は観光客に向けた街頭アンケートと、地域住民に向けたアンケートの2つの調査を行った。

	アンケート調査	街頭アンケート	
対象	地域住民	観光客	
場所	-	栃木駅	岩下新生姜ミュージアム
調査期間	自治体にアンケート配布	2019年9月7日	2019年9月16日
	回収期日	11:00~15:00	11:00~15:00
	2019年10月17日		

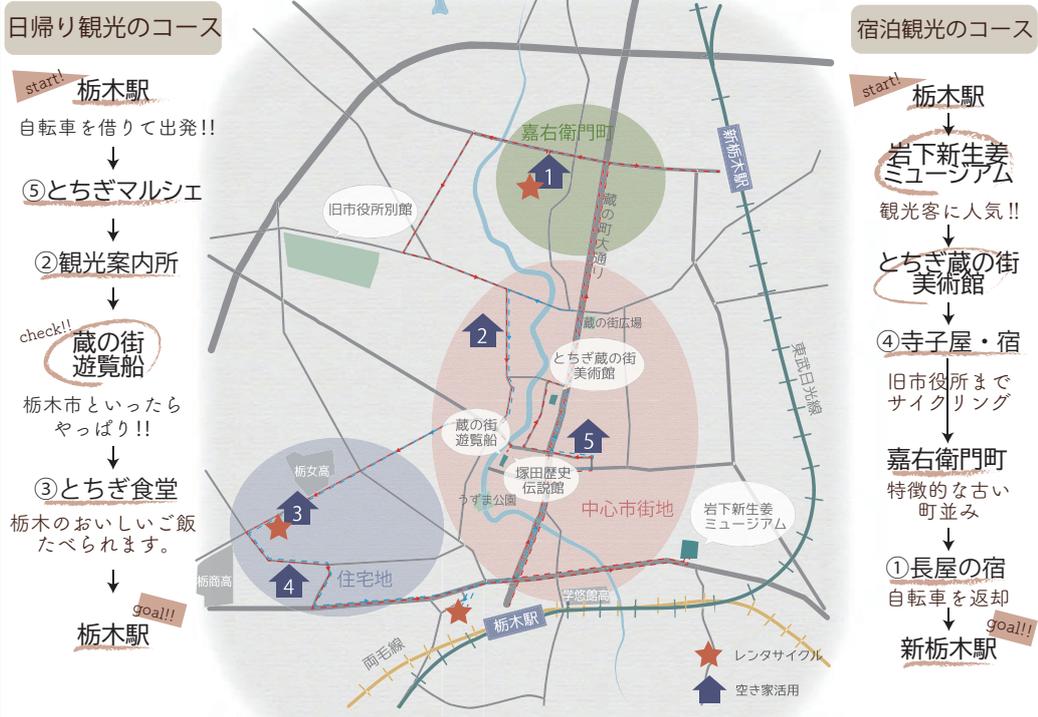
分析結果

- 地域住民に対するアンケートより…
- ・住民は観光するにも生活するにも、**施設数が不足している**と感じている。
 - ・住民は**観光誘致に前向き**である。
- 観光客に対するアンケートより…
- ・観光は**大通り**がメインであり、そこにしか行かない人も多い。
 - ・**日帰り観光**が多い。

考察

アンケートの結果、住民は飲食店や交流拠点、さらには観光客向けの施設への空き家の転用を望み、また観光客は蔵の街大通り周辺のみで行動が完結していることが分かった。エリア内に点在する空き家を飲食店や観光施設などにリノベーションすることで、地域の活性化に空き家が貢献すると考える。エリア内に観光客の行動を広げ、滞在時間を増加させるためにレンタサイクルは効果的である。

提案



① レンタサイクルスペースを持つ宿

二階は宿として活用
 自転車をおける土間

長屋という元々の建物のかたちを有効に利用するために、自転車を持ったまま気軽に泊まれる宿を提案する。

② 地元住民と交流できる観光案内所

駅からの道順がわかりやすく、観光客の多くの利用が見込まれる。親しみが持てる観光案内を提案する。また、住民の集会所としての役割を果たす。

明るい座敷では、市民交流としてお茶教室開催

③ とちぎの地産地消食堂

栃木産の食材を使い、地元住民も観光客も自転車でも、歩きでも、気軽に訪れることができる。元々の空き家の広いキッチンダイニングを活用した提案。

④ 昼は寺子屋、夜は宿

学校帰りの近所の子供たちが、勉強する場所を提供。

地元のひとのいろんな話も、観光客同士の会話も盛り上がる、あたたかい雰囲気のある宿。

⑤ とちぎマルシェ

古民家の縁側を利用したマルシェ。観光にももちろん、とちぎの農家と消費者を繋ぐ役割も果たす。

生産者の顔を見て安心して食べ物を購入することができる。

レンタサイクルについて

それぞれの空き家と栃木駅・新栃木駅周辺の観光地をレンタサイクルによって周遊できるようにすることで、狭い路地にある観光地への訪問を今まで以上に楽にできるようになると考えた。

また、私たちが選択した空き家と観光地をつなげた周遊ルートも作成したので、そちらも栃木市観光の参考にしていただけたら幸いです。